



日本シティズンシップ教育フォーラム
2018 年度事業計画

1. 事業計画

(1) ネットワーキングの場の創出

■ 「シティズンシップ教育ミーティング」の開催

シティズンシップ教育に携わる様々な方々の横断的な交流や結びつき、意見交換の機会を作ることを目的とし、第 5 回「シティズンシップ教育ミーティング」を開催する。特に今年度は意思決定や社会活動にあたって看過できない「ポスト真実」の時代と言われる情報環境に目を向けてメディア・リテラシーに関する全体討議を設ける他、分科会ではテーマごとに関係者が向き合うべき課題の共有を図る。また、高校生対話セッションを新設するほか、前回から継続して高校生・大学生発表セッションを設けて、若者の声と動きから学ぶ機会を充実させていく。

(日程：3 月 24 日～25 日／場所：立教大学)

■ 「J-CEF クロストーク」の開催

シティズンシップ教育に関連するホットトピックスについて、会員内外から複数名のゲストを招いたセミナーを年 2 回程度開催する。内容については、社会教育と学校教育との連携によるシティズンシップ教育の広範な推進、子ども・若者議会等で見られる政治参加推進、中高生にとって存在感の大きい部活動、社会的に関心が高まっている「持続可能な開発目標 (SDGs)」推進、成人年齢引き下げに伴う「18 歳成人」といった切り口を軸に据えつつ、運営委員会等にて検討する。運営委員が持ち回りでコーディネーターを担当する。

(〈西日本会場〉日程：5 月～6 月頃／場所：京都市内の教育施設)

(〈東日本会場〉日程：10 月～11 月頃／場所：東京都内の教育施設)

■ 「J-CEF スタディ・スタヂオ」の開催

報告発表やプログラム実験、合評等を通じた相互研鑽の場を設ける。今年度は KOBE スタヂオと KYOTO スタヂオ、TOKYO スタヂオにて毎月一回定期的で開催する。KOBE スタヂオと KYOTO スタヂオは参加者有志が持ち回りで話題提供者を担当する。「J-CEF NEWS」等の著者を招いての読書会や合評会など、拡大企画も適宜行う。TOKYO スタヂオは、6 月頃よりシティズンシップ教育推進人材養成講座と連動させて行う。

(頻度：月 1 回／場所：神戸市内、京都市内及び東京都内の教育施設等)

■ 「高校生ソーシャルデザイン・スクール (仮称)」に関する企画検討 新設

政治参加や社会参加の実践や探求に取り組んでいる高校生世代の若者がネットワーキングを

進めながら、それぞれの実践や探求をブラッシュアップしていく場を夏季休暇期間に新設することをねらいとする催事の実施に向けての企画検討を運営委員会において進める。

(検討期間：一年間)

■「シティズンシップ教育研究大会（仮称）」に関する企画検討 **新設**

若手研究者の研鑽と対話の場づくりについて、「シティズンシップ教育ミーティング」の研究発表セッションの充実化を図っていくことを軸に企画検討を運営委員会において進める。

(検討期間：一年間)

(2)現場の関係者を応援するメディアの制作

■機関誌「J-CEF NEWS」の発行

シティズンシップ教育の好事例の発掘・紹介、シティズンシップ教育に深く切り込む特集記事などを中心としたニュースレターを発行し、会員には無償配布する。内容については、専門部会にて検討する。バックナンバーについては、有償販売する。

(発行頻度：年4回〈3月、6月、9月、12月を予定〉)

■ウェブサイトを活用した情報発信

ウェブサイトとFacebookページを通じて、各種主催事業の開催告知及び実施報告を行い、会内外へ情報発信する。また、会員に登録限定されているメーリングリストでは主催事業情報に加えて、シティズンシップ教育関連の催事情報を運営委員が配信し、会員獲得の一助とする。

■新たな出版に関する企画検討 **新設**

『シティズンシップ教育で創る学校の未来』に続くものとして、どのような出版が現在求められているのかを運営委員会において企画検討し、方向性が定まったところで、監修者を決定し、専門部会を立ち上げる。現時点で案出されている方向性としては、(1)広がりを見せている学校教育の実践事例を紹介するもの（研究者による事例解説も加える、以下同じ）、(2)社会教育や子ども・若者参加の実践事例を紹介するもの、(3)社会参加／政治参加に取り組む中高生にインタビューして紹介するもの、(4)学校と学外機関との協働の実践とそのコーディネートノウハウを紹介するもの、(5)高校生や大学生対象としてシティズンシップ教育や社会参加の手引きとなるものが挙げられている。

(3)実践を広範に推進する社会環境の創造

■「シティズンシップ教育推進人材養成講座」の開催

シティズンシップ教育を実践する人材に必要な知識的理解とプログラム開発に必要な技能の習得を図る場として、連続講座を開催する。今年度は過年度の試行実践を踏まえ、東日本会場ではTOKYOスタジオを本講座として位置付け、年間通して緩やかな体系性を有した内容を提供することとする。西日本会場では、スタディ・スタジオ参加者の参画も得ながら、形式

を検討していく。運営委員複数が講師となって、その提供を行う。また、特定期間内に授業公開に協力いただける会員の情報を集約して発信するといった「講座後」の学習機会提供方策についても検討を進めていく。

（〈東日本会場〉年間通じて／場所：東京都内の教育施設）

（〈西日本会場〉9月中下旬／場所：京都市内の教育施設）

■若者を対象とする表彰制度の創設検討

「シティズンシップ教育ミーティング」における高校生・大学生発表セッションの場を活用しながら、社会の変革と創造をめざす実践や探究に取り組む高校生・大学生等、若者の活動を表彰する制度創設に向けて、運営委員会において協議を進める。この際、「高校生対象ソーシャルデザイン・スクール（仮称）」とも関連づけて検討する。

2. 事業推進体制案

■経営体制

運営委員会を設置し、総会に付議すべき事項や総会の議決した事項の執行に関する事項等について決議する。開催頻度は、概ね4ヶ月に1回程度とする（2-3月、7-8月、10-11月）。2018年度に第4期の体制が新たに始まることから、集中討議の実施も検討する。

■執行体制

事業執行にあたっては、専門委員からなる部会を設置し事業執行にあたる。2018年度は、シティズンシップ教育ミーティングの企画検討を行う「ネットワーキング部会」を設置するその他の事業については、運営委員や有志会員等が中心となり、企画運営することとし、必要性に応じてタスクチームも設置しての特別会議を行うこととする。タスクチーム編成にあたっては、高校生・大学生等の若者にも参画機会を保障していく。

■事務局

経営・執行を支えるため、以下の事務局体制を整える。事務局長（西日本1名）、事務局員（東日本1-2名、西日本1-2名）、ボランティア（ネットワークミーティング時募集、10名程度）。今後の持続可能性を高めるために、東日本地域に事務局次長を担う人材を探っていく。

以上